

平成24年3月2日（金）

エゾシカ生体捕獲事業（囲いワナ）視察

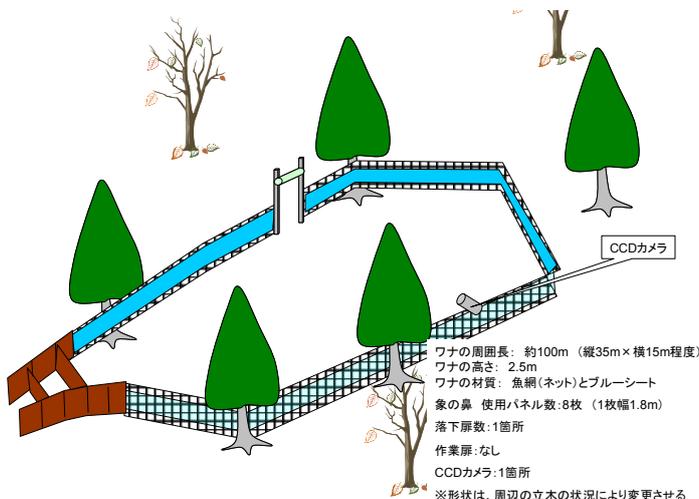
3月2日（金）、根釧西部森林管理署管内の国有林に設置されているエゾシカ囲いワナの視察を行いました。

近年エゾシカによる農林業被害が増大していることから、北海道森林管理局ではエゾシカ対策として、効率的な駆除や狩猟に役立つ林道の除雪、狩猟禁止区域の縮減、エゾシカの全道的な影響調査などに取り組んできました。特に、根釧西部森林管理署管内では、平成21年度から白糠町の国有林で自ら囲いワナを設置するなど、積極的な取り組みを進めています。

今年度、釧根西部森林管理署では釧路市阿寒町の国有林に囲いワナを設置して、周囲のエゾシカの個体数を減らすための捕獲を実施しています。囲いワナは、まリモ国道から国有林林道に入った場所に設置しており、捕獲による地域個体数の減少、生体捕獲によるシカ肉の有効利用などが期待されているものです。囲いワナは1月下旬から設置されていますが、エゾシカの警戒心が強いためか、この日まで捕獲がありませんでした。ワナの近くまでの足跡が確認されていることから、今後の捕獲が期待されているところです。



囲いワナの中



圍いワナの模式図



捕獲するための誘導口